

# 重心動揺異常とめまい・平衡障害疾患

## 1. 迷路障害を示唆する所見

- ・動揺型が左右動揺型、あるいは左右拡大型
- ・動揺中心の左・右方向への変位
- ・動揺面積が、開眼では正常でも閉眼で増大
- ・閉眼面積の増大に基づくロンベルグ率の増大

## 2. 小脳障害を示唆する所見

- ・動揺型が開閉眼とも大動揺型
- ・動揺面積が開閉眼とも $\pm 2$  SDを大きく越える
- ・単位面積軌跡長が異常に減少
- ・後方への異常な変位
- ・面積・単位軌跡長の増大に関わらずロンベルグ率が増大しない

## 3. パーキンソン病を示唆する所見

- ・動揺型は微細動揺型（小刻みに揺れる）、また動揺中心が移動する型、多中心型を示し、個々の測定値は基準範囲

以上の特徴を認めない場合でも、恒常的に重心動揺測定値に異常を認める例では、迷路・中枢神経系、その他に何からの異常の存する可能性があります。各種平衡機能検査を含む神経学的検査、内科学的検査で原因を精査する必要があります。